

富山県小矢部市  
桜町遺跡発掘調査報告書

縄文土器・石器編 I  
第3分冊

—舟岡地区 西端地区・試掘調査区・第2調査区・第10調査区—

2006年  
小矢部市教育委員会

# 目 次

第Ⅰ章 西端地区.....	1
1 概要.....	1
2 弥生土器.....	1
第Ⅱ章 試掘調査区.....	2
1 概要.....	2
2 A地区.....	2
3 B地区.....	2
4 C地区.....	2
5 D地区.....	3
6 E地区.....	3
7 平成11年度試掘区.....	4
第Ⅲ章 第2調査区.....	5
1 概要.....	5
2 繩文土器.....	5
3 土偶.....	6
4 石器.....	6
第Ⅳ章 第10調査区.....	7
1 概要.....	7
2 繩文土器.....	7
3 石器.....	7
第V章 まとめ.....	8
参考文献.....	8

# 図 版 目 次

## 図版

第1図 西端地区弥生土器.....	1
第2図 調査区位置図.....	15
第3図 舟岡地区試掘調査A地区.....	16
第4図 舟岡地区試掘調査B地区.....	17
第5図 舟岡地区試掘調査C地区.....	18
第6図 舟岡地区試掘調査D地区.....	19
第7図 舟岡地区試掘調査E地区.....	20
第8図 舟岡地区試掘調査区縄文土器（1）.....	21
第9図 舟岡地区試掘調査区縄文土器（2）.....	22
第10図 舟岡地区試掘調査区縄文土器（3）.....	23
第11図 舟岡地区試掘調査区縄文土器（4）.....	24

第12図	舟岡地区試掘調査区縄文土器（5）	25
第13図	舟岡地区試掘調査区石器（1）	26
第14図	舟岡地区試掘調査区石器（2）	27
第15図	舟岡地区第2調査区縄文土器（1）	28
第16図	舟岡地区第2調査区縄文土器（2）	29
第17図	舟岡地区第2調査区縄文土器（3）	30
第18図	舟岡地区第2調査区縄文土器（4）	31
第19図	舟岡地区第2調査区石器	32
第20図	舟岡地区第10調査区縄文土器	33
第21図	舟岡地区第10調査区石器	34

## 表

表1	西端地区弥生土器	9
表2-1	試掘調査区縄文土器一覧表（1）	9
表2-2	試掘調査区縄文土器一覧表（2）	9
表3-1	試掘調査区石器一覧表（1）	10
表3-2	試掘調査区石器一覧表（2）	11
表4-1	第2調査区縄文土器一覧表（1）	11
表4-2	第2調査区縄文土器一覧表（2）	12
表4-3	第2調査区縄文土器一覧表（3）	13
表5	第2調査区土製品一覧表	13
表6	第2調査区石器一覧表	13
表7-1	第10調査区縄文土器一覧表（1）	13
表7-2	第10調査区縄文土器一覧表（2）	13
表8	第10調査区石器一覧表	14

## 写真図版

図版1	調査区全景(上)・西端地区(下)	
図版2	西端地区弥生土器出土状況(上)・試掘調査 A地区(下)	図版12 試掘調査区縄文土器（7） 図版13 試掘調査区石器（1）
図版3	試掘調査B地区(上)・C地区(下)	図版14 試掘調査区石器（2）
図版4	試掘調査D地区(上)・E地区(下)	図版15 第2調査区縄文土器（1） 図版16 第2調査区縄文土器（2） 図版17 第2調査区縄文土器（3）
図版5	西端地区弥生土器	図版18 第2調査区縄文土器（4）・土偶 図版19 第2調査区石器
図版6	試掘調査区縄文土器（1）	図版20 第10調査区縄文土器（1） 図版21 第10調査区縄文土器（2）
図版7	試掘調査区縄文土器（2）	図版22 第10調査区石器
図版8	試掘調査区縄文土器（3）	
図版9	試掘調査区縄文土器（4）	
図版10	試掘調査区縄文土器（5）	
図版11	試掘調査区縄文土器（6）	

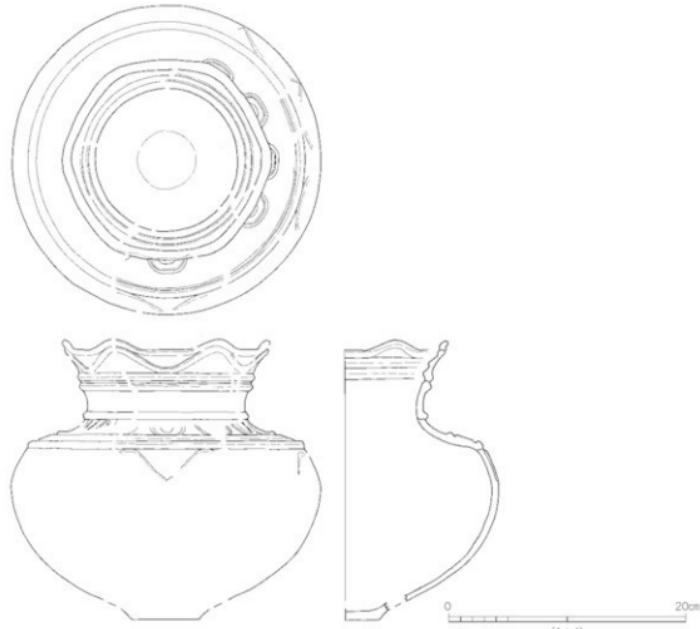
## 第Ⅰ章 西端地区

### 1. 概要(図版1)

西側地区は、昭和60年(1985)に、遺跡西端の標高59.6mの丘陵上で、バイパス工事に伴う土取り工事中に発見された。標高58.5~57mのところに径3.3m、厚さ90cmの黒色土の溜まりがあり、その下の黄褐色土中(標高56.2m)に潰れたような状態で、弥生時代前期とみられる土器が出土した。また、この他に出土状況は不明であるが、縄文地に細い粘土紐の貼り付けがある縄文時代前期福浦上層式土器の破片が出土している。

### 2. 弥生土器(第1図、図版5)

1は、口径17.4cm、胴部最大径26cm、高さ25cmの壺形土器である。口縁部は山形7波頂、口縁部と胴部に隆帯貼付け、強く張る胴上部に彫り込み蓮華文、胴下部に三叉文の彫り込みがある。内外とも赤彩している。器形や文様は、弥生前期の遠賀川式土器の壺との関連がみられないので、時期は、弥生時代前期と考えられる。



第1図 西端地区弥生土器

## 第Ⅱ章 試掘調査区

### 1. 概要

昭和61年（1986）に舟岡地区の試掘調査を実施した。一辺6～13mの方形の調査区を、A区からE区の5カ所に設けた。

### 2. A地区（第2図、図版2）

A地区は、現在の第10調査区にあたるところである。発掘面積は90m<sup>2</sup>である。地表面の高さ40.7mで、深さ1.7～2.1mにある褐色土上面まで掘り下げた。その間の地層は6層に区分されており、最下層の黒色粘質土に、縄文時代晚期の土器、クルミの核が含まれていた。

### 3. B地区（第3・12図、図版3・13）

B地区は、現在の第4調査区にあたるところである。発掘面積は92m<sup>2</sup>である。地表面の高さ39mで、深さ4.2mにある黒色粘質土まで掘り下げた。その間の地層は27層に区分されており、地表面から2.6mにある黒色粘質土から、縄文時代晚期の土器、打製石斧（1）、石錘（2）、クルミ・トチ・ミズキの種実が出土した。

### 4. C地区（第4・12図、図版3・13）

C地区は、現在の第8調査区と第9調査区の境にあたるところである。発掘面積は107m<sup>2</sup>である。地表面の高さは37mで、深さ4mにある黒色粘質土まで掘り下げた。その間の地層は13層に区分されており、最下層の黒色土から縄文時代早期の土器、深さ2.5mにある暗灰黒色土器から縄文時代前期初頭の土器、深さ70cmの暗黒褐色土から縄文時代中期の土器、石斧、凹石（3）、石錘が出土した。

最下層の黒色土に含まれていた樹根のC14年代測定値は、9180±130（Gak-13290）であり、暗黒褐色土に含まれていた大きさ60cmの丸太材のC14年代測定値は、6100±100（Gak-13289）である。

#### 縄文土器

早期（21）口縁部内側に段がある貝殻沈線文を施した波状口縁深鉢である。早期後半に東日本南部に分布する常世式土器に類似がある。

佐波・極楽寺式土器（1）1は波頂部に隆帯を垂下する波状口縁深鉢である。口縁部には刺突文、胴部に羽状縄文を施す。前期初頭に位置付けられる。

新崎式土器（2）2は半截竹管文の垂下と縄文の深鉢である。中期前葉に位置付けられる。

古府式土器（3・5）3は胴部が直線的に開く縄文深鉢で、口唇部に三つ山突起が4カ所に付く。5は口縁部が内傾する浅鉢で、口縁端部に隆帯を貼り、半截竹管による櫛状文が4カ所にある。中期中葉に位置付けられる。

古串田新式土器（4・6）4は波頂部がU字形3カ所、W字形1カ所の波状口縁深鉢で、口縁部には沈線による工字文と貝殻腹縁文がある。6は口縁部に沈線による工字文と貝殻腹縁文がある平口縁深

鉢である。中期中葉に位置付けられる。

## 5. D地区（第5・図、図版4・12・14）

D地区は、現在の第7調査区にあたるところである。発掘面積は71m<sup>2</sup>である。地表面の高さは31.70mで、深さ4mにある暗黄色砂礫まで掘り下げた。その間の地層は17層に区分されており、深さ2.8mの疊層から縄文時代前期初頭の土器（22）、深さ2mにある疊層から縄文時代中期・後期・晚期の土器、石刀、打製石斧、擦石が出土した。

### 縄文土器

佐波・櫻楽寺式土器（22）22は羽状縄文上に刺突文がある深鉢である。前期初頭に位置付けられるものである。

### 石器

石刀（15）両端を欠くが、長さ26.2cm、幅7.6cm、厚さ4.3cmで、表面に剥離痕が残る未成品である。石材は、頁岩あるいはディサイト質凝灰岩である。

## 6. E地区（第6・9～12図、図版4・10・11）

E地区は、現在の第7調査区の第8調査区寄りにあたるところである。発掘面積は37m<sup>2</sup>である。地表面の高さは32.50mで、深さ2mにある青灰色砂の上面まで掘り下げた。その間の地層は5層に区分されており、最下層の黒色粘質土から縄文時代晩期の土器、打製石斧、磨製石斧、敲石、凹石、調整剝離のある削片、石刀、砥石、骨などが出土した。

### 縄文土器

御経塚式土器（18・19・20）18は水平な口唇部に縄文と隆帯の貼付がある浅鉢である。19は注口土器である。胴部に縄文と三爻文がある。20は体部が直線的に開く浅鉢である。晩期前葉に位置付けられる。

中屋式土器（11・12・14～17）11は口縁部がくの字に開き、胴部が丸く張る無文の深鉢である。12は口縁部にB字状突起が付き、胴部に鍵手文と列点文がある深鉢である。14は口縁部がくの字に外反する条痕文深鉢である。15は無文の鉢形土器である。16は口縁部にB字状突起、胴部に入り組み三爻文がある底部が丸い鉢形土器である。17は波頂部にさんご状突起と3つの小孔がある波状口縁浅鉢である。晩期中葉に位置付けられる。

下野式土器（7～10）7～9はいずれも、底部に比較して口縁部が大きく開く器形の条痕文深鉢である。10は口縁部を欠くが、胴部が張る壺形土器である。胴部には沈線による工字文がある。晩期後葉に位置付けられる。

### 石器

打製石斧（4～6）いずれも撥形である。石材は、花崗岩、頁岩、輝石安山岩がある。

磨製石斧（7）頭部先端及び両側辺に打ち欠きがある。石材は蛇紋岩で、打製石斧に転用したものようである。

敲石（8）左右側辺及び両端を打ち欠いた後、敲打している。石材は、輝石安山岩である。

凹石（9～11）9は長方形の板状砂岩で表面に凹み、10は火山凍結灰岩の自然縫の表面に凹み、11は頁岩の自然縫の表面に2カ所、裏面に1カ所の凹みがある。

調整剥離のある剥片（12）右肩に調整剥離がある。石材は珪質頁岩である。

石刀（13・14・16・17）13は東部で研磨痕がある。14は刃部の先で、研磨痕がある。16・17は両端を欠く。16は表面に剥離痕、17は表面に敲打痕が見られる。いずれも未成品である。石材はデイサイト質凝灰岩、凝灰岩がある。

砥石（18）周囲を欠くが、表裏面とも平滑なもの。石材は礫岩である。

## 7. 平成11年度試掘区（第9・13図、図版12・14）

平成11年（1999）に、遺跡の全体像を把握すること目的に、クラムシェルバケットを使った試掘が行われた。舟岡地区の第3～5調査区に、一辺約2mの試掘穴が9カ所に掘られた。その際に第3調査区のT2区から岩偶が掘りあげられた。

### 縄文土器

佐波・極楽寺式土器（20）羽状縄文がある。胎土に纖維を含む。前期初頭に位置づけられる。

### 石器

岩偶（19）長さ5.6cm、幅3.5cm、厚さ1cmの自然縫に、上部に直径1cm深さ4mmの凹みと、その左右に径1mmの刺突、下部は先端に抉りをいれて二股とし、その上に縦線で埋めた逆台形の沈線区画文がある。裏面には下部に縦線が刻まれている。上部の文様は顔を、下の文様は股の部分を表しているものと考えられる。石材は流紋岩質凝灰岩である。時期は、晩期と考えられる。

## 第Ⅲ章 第2調査区

### 1. 概 要

第2調査区は、第1調査区の西側に続くところである。平成10年（1998）～12年（2000）に発掘調査を実施した。古墳時代以降の川が大部分を占めており、縄文時代の遺構は認められず、縄文時代の土器・石器は上流からの流れ込みである。

### 2. 縄文土器（第14～18図、図版15～18）

前期、中期、後期、晩期の土器がある。

#### 前期

佐波・極楽寺式土器（2・3）2は口縁部に縦の隆帯の貼付と縄文の深鉢である。3も同類である。前期初頭に位置付けられる。

朝日下層式土器（4）口縁部は縄文地に細い粘土紐を縦に貼り並べ、爪形文を伴う細い隆起線がある深鉢である。前期中葉に位置付けられる。

#### 中期

新保式土器（1）開く口縁に環状2カ所、帯状2カ所の突起が付く。口縁部に爪形文を伴う隆帯と半截竹管による縦線がある。中期初頭に位置付けられる。

新崎式土器（5～9・41）5・6は、口縁部に隆帯を這らせ、半截竹管による半隆起線文を縦・横に引き、隆帯上と半隆起線間に爪形文がある深鉢である。8も半截竹管による半隆起線文と爪形文があるもので、胴部は絹条縄文がみられる。7は口縁部が受け口状となる縄文深鉢である。9は口縁部に一条の半截竹管による半隆起線文が巡る縄文深鉢である。41は隆帯と半截竹管文半隆起線の垂下と格子文がある。中期前葉に位置付けられる。

上山田・天神山式土器（10・35）10・35は半截竹管半隆起線文による弧線文がある。35は爪形文がある隆帯がある。中期中葉に位置付けられる。

古府式土器（11・29・43）ヘラ刻みのある隆帯と幅広沈線の曲線文がある深鉢である。29・43は同一個体とみられる。縄文地に沈線による縦・横線、43には横線間に爪形文がある。中期中葉に位置付けられる。

古串田新式土器（12～18・40）12～15・40は、半截竹管または幅広の沈線による半隆起線文で工字文を描く深鉢である。半隆起線上にヘラ刻みのもの（12）、櫛歯列点文のもの（13・14）、貝殻腹縫文のもの（15）がある。16は、キャリバ一口縁の浅鉢である。17は隆带上に円形押圧文があるもので、胴部に半截竹管半隆起線文が見られる。18は口縁部に櫛歯列点文がある深鉢である。中期中葉に位置付けられる。

串田新式土器（19～26・28・30～33・36～38・42・45）19は隆帶間に縦線がある波状口縁深鉢、20は口縁部が肥厚する深鉢である。21は鉢付土器とみられる。22は口縁部に貝殻腹縫文、23～25は葉脈状文がある深鉢である。26は口縁部に沈線間に1列の列点文がある。30は葉脈状文のある内湾器形の

浅鉢、31は体部が直線的に開く浅鉢、32はねじり棒突起が付く浅鉢である。36は、連弧区画内に貝殻腹縁文がある。38は口縁部下に貝殻腹縁文がある。37・42は口縁部が隆帯区画内に縦文がある。45は2本沈線による楕円区画文を描く。中期後葉から後期初頭に位置付けられるが、18・19・32・36は、串田新I式土器の特徴で、その他のものよりやや古く位置付けされているものである。

#### 後期

前田式土器（27・28・33）27・44は頸部の沈線間に3段の列点文がある深鉢、28は頸部に連弧文が巡る。33は肩部に橋状把手が付く鍔付土器である。後期初頭に位置付けられる。

気屋式土器（39）口縁部に三角列点文が巡るもの。後期前半に位置付けられる。

井口式土器（47）縦文地に口縁部に3条の凹線が巡るもの。後期後葉に位置付けられる。

#### 晩期

中屋式土器（48・49）48は、49は口縁部がくの字外反で、口唇部に押圧や刻みを施す深鉢である。

48は胴部が条痕文である。晩期中葉に位置付けられる。

下野式土器（46）横位の条痕文を施す深鉢である。晩期後葉に位置付けられる。

### 3. 土偶（第17図、図版18）

50は河童形土偶の腕部と考えられるものである。表裏ともに沈線の平行線が描かれている。中期中葉のものとみられる。

### 4. 石器（第18図、図版19）

打製石斧（1～3）1は短冊形、2・3は撥形である。石材は、砂岩と輝石安山岩である。

磨製石斧（6・7）6は刀部が広いもの、7は短冊形である。石材はいずれも凝灰質砂岩である。

敲石（4）棒状楕円礫の両端を敲打している。石材は砂岩である。

凹石（5）楕円礫の表裏に凹みがある。石材は砂岩である。

石刀（8）刀部の先の部分である。全体が研磨され、右側辺に刀部を作り出しているが、磨きの稜線が残るので未製品である。石材は頁岩である。

## 第IV章 第10調査区

### 1. 概要

第10調査区は、舟岡地区の西端北側である。平成2年（1990）年に発掘調査を実施した。縄文時代の遺構は、晚期の埋甕があり、縄文土器・石器が出土している。

### 2. 縄文土器（第19図、図版20・21）

中期、晚期の土器がある。

新崎式土器（1）キャリバ一口縁深鉢である。口縁部に半截竹管による横線と縦線を描く。胴部は結節縄文を施す。中期前葉に位置付けられる。

加曾利B式土器（7）注口土器の環状突起である。後期中葉に位置付けられる。

下野式土器（2・3～6・8・9）2は埋甕である。口径41cm、器高38.8cm、底部径9.4cm、横位の条痕文を施した完存品である。3～5・8は沈線間に列点文、6・9は条痕文がある。

### 3. 石器（第20図、図版22）

打製石斧、敲石、石錘がある。

打製石斧（1～4）1は短冊形、2・5は撥形、3・4は分銅形である。石材は砂岩、輝石安山岩、花崗閃緑岩がある。

敲石（6）棒状楕円礫の両端に敲打痕がある。石材は砂岩である。

石錘（7）小判形円礫の両端に欠き込みがある。石材は輝石安山岩である。

## 第V章　まとめ

舟岡地区は、東に開口する谷間である。西端地区は、開口部から約460m奥まった所にあり、遺物包含層の高さが56.2mの丘陵中腹である。開口部の幅は約100m、谷奥の第10調査区のところでは約50mでその間の長さは約350mである。開口部の標高は29m、第10調査区では42mで、その間の高低差は13mである。この間において、縄文時代早期から晩期までの遺物が出土した。

**早期** 最も古いものは、後半の押型文土器で、開口部にある第1調査区東寄りの川底から出土した。摩滅しているので流れ込みである。押型文土器はここだけにあるので、南側の丘陵から流れ込んだものと考えられる。そのつぎは、貝殻沈線文土器である。谷のほぼ中央（第8調査区と第9調査区の境）で、海拔33mの地点から出土した。これについても、北側丘陵から落ち込んだものと考えられる。[桜町遺跡発

掘調査団編2001]

**前期** 第8調査区と第9調査区の境と第7調査区西側寄り、第2調査区から、初頭の佐波・極楽寺式土器が出土しているが、この時期も北側丘陵からの流れ込みとみられる。中葉のものは、第1調査区と第6調査区から出土しており、開口部南側の丘陵からの流入とみられる。谷奥では発見されない。

後葉は、西端地区と第2調査区から出土している。

**中期** 前葉のものは、開口部と谷の中央、谷奥から出土しており、開口部南側丘陵と北側丘陵からの流れ込みと見られる。中葉・後葉のものは、開口部と谷の中央から出土している。

**後期** 前葉のものが谷の中央から、中葉のものが谷奥から、後葉のものが谷の中央から出土している。

**晩期** 前葉・中葉のものが谷の中央から、後葉のものが谷全体から出土している。

調査年		1985	1986	1990	1986	1986	1986	1986	1998
調査区		西端地区	A第10区	B第4区	C第8区	E第7区	D第7区	第2調査区	
時 期	包含層高さ 土器型式	39.6 m	38.6 m	40.72 m	36.4 m	33 m	30.5 m	28.9 m	30.1 m
早 周	後半 縄文〔常世〕					●			
前 葉	佐波・極楽寺				●		●	●	
中 葉	朝日C 福浦上層 観ヶ森								
周 期	後葉 福浦上層 朝日下層		●						●
中 周	前葉 新保 新崎I			●		●			●
中 周	中葉 上山田・天神山I 上山田・天神山II 古市					●			●
中 周	後葉 串田新 串田新					●			●
後 周	前葉 前田・若狭野 氣屋I 氣屋II								●
後 周	中葉 横北 酒見・井口I			●					
後 周	後葉 井口II 井口III 八日市新保I 八日市新保II								●
晚 周	前葉 御経野・鶴木原 御経野II						●		
晚 周	中葉 中屋I 中屋II					●		●	
後 周	後葉 下野I 下野II・長竹 柴山出村		○	●	○		●		●
萌 生	前周								

縄文土器の出土状況

表1 西端地区弥生土器 第1図、図版1

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	型式
1	壺形土器	西端土取り中	口径17.4cm 高さ25cm 底径6cm	波状口縁、山形7波頂、口縁部と胴部中央に隆帯貼付け、大きく丸く張り出す胴部に彫り出しによる蓮華文と三爻文彫り出しによる山形文、内外赤彩	弥生前期

表2-1 試掘調査区縄文土器一覧表(1) 第8~12図、図版2~6

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	型式
1	深鉢	C区下層黒	口径30cm 器高残18cm	波状口縁、波頂部に隆帯垂下 口縁部に刺突文、胴部羽状縄文	佐波・極楽寺式
2	"	C区	器高残20.7cm 底径11.6cm	胴部縄文地に半截竹管文垂下	新崎式
3	"	C区	口径34.8cm 器高残27cm	口縁部4カ所に三つ山突起、胴部縄文	古府式
4	"	C区黒	口径31.2cm 器高残23.4cm	波状口縁、波頂部U字形3波頂、W形1波頂、口縁部工字文、貝殻復縄文	古串田新式
5	浅鉢	C区谷黒1層	口径37.2cm 器高10.5cm 底径11.6cm	口縁部くの字内傾、口縁部に半截竹管文による柳状文様4カ所、やや凹底	古府式
6	深鉢	C区I層黒	口径36cm 器高41.9cm 底径14.2cm	平口縁、口縁部工字文、貝殻復縄文、胴部斜縄文	古串田新式
7	深鉢	E区	口径30cm 器高残20.8cm	平口縁、横位の条痕文	下野式
8	"	"	口径24cm 器高残14cm	平口縁、斜位の条痕文	"
9	"	"	口径14.2cm 器高14.1cm 底径3.3cm	平口縁、無文	"
10	壺形土器	" 黒灰土	口径10cm 器高残10.5cm 底径6.5cm	口縁部欠、胴部工字文	"
11	深鉢	"	口径12.8cm 器高残11.9cm	平口縁、頭部くの字、胴部球形 無文	中屋式
12	"	"	口径23cm 器高残25.5cm 底径5cm	平口縁、B字状突起、胴部健手文、列点文	"
13	"	"	器高残6.3cm 底径8.5cm	底部、無文	
14	深鉢	E区、黒色土	口径30.5cm 器高残23.2cm	平口縁、胴部斜位の条痕文	中屋式
15	鉢	"	口径22.8cm 器高10.5cm 底径5cm	平口縁、無文	"

表2-2 試掘調査区縄文土器一覧表(2) 第10・12図、図版6~8

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期・型式
16	鉢	E区、黒色土	口径16.1cm 器高残8.3cm	平口縁、B字状突起、胴部入り 組み三爻文	中尾式
17	浅鉢	"	口径23.7cm 器高8.4cm 底径4cm	波状口縁、波頂部にさんご状突起と3つの孔、胴部無文	"
18	"	"	口径45.6cm 器高残13.6cm	平口縁、口唇部に縄文と陰帶貼付、胴部無	御経塚式
19	注口土器	98クラムシェル	器高残17cm	体に部に段、三爻文、縄文	大洞式
20	深鉢	"	厚さ1cm	羽状縄文、織維含有	佐波・極楽式
21	"	C区	厚さ5mm	沈線間に貝殻模様文	早期
22	"	D区	厚さ9mm	羽状縄文に刺突文	佐波・極楽式
23	"			刺突文	"

表3-1 試掘調査区石器一覧表(1) 第13・14図、図版9・10

番号	種類	年度・遺構・地区・層位	大きさ	特徴 石材
1	打製石斧	86B区黒上	長さ18.3cm、幅8.4cm 厚さ3.7cm、重さ663g	撥形、完形、表上部に縫面、砂岩
2	石錐	86B区黒	長さ6.3cm、幅5.9cm 厚さ1.8cm、重さ98g	梢円形自然縁、上下側刃に欠き込み 輝石安山岩
3	凹石	86C区黒	長さ8.7cm、幅6.9cm 厚さ4.2cm、重さ366g	小判形自然縁、表裏に2力所ずつの凹み、輝石安山岩
4	打製石斧	86E区黒	長さ11.8cm、幅9cm 厚さ2.8cm、重さ391g	撥形、頭部欠損、表が縫面、花崗岩
5	"	"	長さ9.3cm、幅5.9cm 厚さ1.8cm、重さ130g	短冊形、頭部欠損、表が縫面、頁岩
6	"	"	長さ10cm、幅6.6cm 厚さ3.1cm、重さ296g	撥形、刃部欠損、表が縫面、 輝石安山岩
7	"	86E区黒	長さ9.5cm、幅4.4cm 厚さ2.4cm、重さ148g	定角式撥形、刃部潰れ、頭先端及び両側刃打ち欠き、打製石斧に転用か 蛇紋岩
8	敲石	"	長さ16.3cm、幅6.3cm 厚さ5.3cm、重さ875g	断面三角形棒状自然縁、左右両端及び下端稜部を打ち欠きの後に敲打 輝石安山岩
9	凹石	"	長さ9.9cm、幅6.9cm 厚さ2.3cm、重さ254g	長方形板状、表面に凹み、砂岩
10	"	"	長さ9.5cm、幅7cm 厚さ4cm、重さ303g	三角形自然縁、下部欠け、表に2力所 裏に1力所ずつの凹み、火山礫凝灰岩
11	"	86E区	長さ7.8cm、幅6.7cm 厚さ3.1cm、重さ233g	梢円形自然縁、表面に凹み、頁岩
12	剥片	86E区黒	長さ3.3cm、幅1cm 厚さ0.4cm、重さ1g	右肩に調整剥離か、珪質頁岩
13	石刀	"	長さ6.4cm、幅4.1cm 厚さ2.5cm、重さ78g	頭部木製品、頭部上端敲打痕、表裏両側面に研磨による擦痕、凝灰岩

表3-2 試掘調査区石器一覧表(2) 第14図、図版10

番号	種類	年度・遺構・地区・層位	大きさ	特徴 石材
14	石刀	86E区黒	長さ21.6cm、幅3.8cm 厚さ2.4cm、重さ223g	刃部木製品、頭部欠損。全体に研磨擦痕、左側刃が平坦で背、右側刃が穂をなし刃部。頁岩? デイサイト質凝灰岩
15	#	86D MIV ジャリ層	長さ26.2cm、幅7.6cm 厚さ4.3cm、重さ855g	刃部木製品、頭部欠損。先端部左欠け全体に整形はつり痕、頁岩? デイサイト質凝灰岩
16	#	86試掘E区黒	長さ14.5cm、幅5.6cm 厚さ2.8cm、重さ303g	刃部木製品、頭部先端部欠損。全体に整形はつり痕、頁岩? デイサイト質凝灰岩。
17	#	#	長さ9.8cm、幅4.4cm 厚さ2.5cm、重さ106g	刃部木製品、裏面欠損、表面敲打痕左側刃に研磨擦痕、デイサイト
18	砥石	86試掘E区黒	長さ7.8cm、幅8.6cm 厚さ4.9cm、重さ463g	周囲欠損、表面平滑、礫岩
19	岩偶	98クラムシェルT 2 VII層	長さ5.6cm、幅3.5cm 厚さ1cm、重さ18g	橢円形自然縁、上端と下端に又状の刻み、表面上部に直径約1cm深さ約4mmの凹みとその左右に直径約1mmの刺突表面下部に沈線による台形枠を描き、その中に縦線を刻む、裏面下部にも縦線を刻む、流紋岩質凝灰岩

表4-1 第2調査区縄文土器一覧表(1) 第15・16図、図版11~12

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	型式
1	深鉢	98X48.5Y86.2 縄1	口径34.8cm 器高残27cm	平口縁に突起(環状2、帯状2)、口縁部に爪形文の隆帯と半截竹管による縦縞、胴部斜縄文	新保式
2	#	00X44Y86.5 SD92	厚さ1cm	平口縁に三角突起、突起したに粘土紐に貼り付け、外面及び口唇部に縄文、胎土に纖維含	佐波・極楽寺式
3	#	98X46.6Y86	厚さ1cm	縦文、胎土に纖維含む	#
4	#	00X46.8Y86.2 III層	厚さ6mm	縄文地に細い粘土紐貼り付け、隆起線に爪形文	朝日下層式
5	#	99X49.3Y86.5トレンド 5	厚さ9mm	平口縁に円形突起、隆帯と半隆起線上に爪形文	新崎式
6	#	99X47.6Y86.3 SD18	厚さ9mm	平口縁、隆帯と半隆起線上に爪形文	#
7	#	99X47.6Y86.3 SD18	口径19cm 器高残5.7cm	平口縁、口縁部内湾、縦文	#
8	#	99X48.5Y86.4 SD05	厚さ9mm	平口縁、半隆起線と爪形文、絆条縦文摩滅しい	#
9	#	00X46.8Y86.2 III層	厚さ7mm	平口縁、口縁端部半隆起線、縦文	#
10	#	99X49.4Y86.5 SD05	厚さ1cm	半截竹管による半隆起線文	上山田・天神山式
11	#	98X46.6Y86	厚さ1.3cm	隆帶上にヘラ刻み、太い沈線による半隆起線	古府式
12	#	99X48Y86.3 SD05	厚さ9mm	半截竹管半隆起線による工字文、ヘラ刻み	古串田新式

表4-2 第2調査区縄文土器一覧表(2) 第16~18図、図版12~14

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期・型式
13	深鉢	99X48Y86.3 SD05	厚さ8mm	櫛歯列点文、太い沈線による半隆起線	古串田新式
14	#	99X47.6Y86.3 SD18	厚さ8mm	櫛歯列点文、半截竹管半隆起線による工字文	"
15	#	99X48.4Y86.2 繩1	厚さ7mm	台付か、隆帯上貝殻腹縁文、太い沈線及び半截竹管半隆起線による工字文	"
16	浅鉢	99X47.4Y85.8 IV層	厚さ5mm	キャリバ一口縁、沈線間縄文	"
17	深鉢	99X47.9Y86.2	厚さ9mm	隆帯上に円形押圧、半截竹管半隆起線文	"
18	#	99X46.6Y86 IV層	厚さ7mm	櫛歯列点文、半截竹管半隆起線文	"
19	#	99X46.6Y86.5 V層	厚さ1cm	隆帯間に縱線と列点文	串田新式
20	#	99X49.4Y86.4 IV層	厚さ7mm	外反平口縁、肥厚口縁、葉脈状文	"
21	鈎付土器か	99表採	厚さ6mm	肩部に張線つなぎの幅広隆帯	"
22	#	99SK16	厚さ6mm	外反口縁、口縁部下に貝殻腹縁文、縄文	"
23	#	98X50Y86.1黒褐色土	厚さ8mm	張線つなぎの平行隆帯重下、葉脈状文	"
24	#	00X46.6Y86 VI層	厚さ7mm	隆帯重下、葉脈状文	"
25	#	99X49.4Y86.5 SD05	厚さ7mm	隆帯重下、葉脈状文	"
26	#	98X46.6Y86	口径22cm 器高残7cm	平行沈線間に列点文、胴部縱条線	"
27	#	99表採	厚さ7mm	頸部平行沈線間竹管状列点文、縱縄文	前田式
28	#	99X46.6Y86.4 IV層	厚さ8mm	頸部に沈線連弧文	"
29	#	99X48.8Y86.3トレンチ5	厚さ7mm	縄文地に沈線による縱横の平行線	古府式
30	浅鉢	99X49.9Y86.4 SD148	厚さ7mm	内湾口縁、橋状把手が付く平行隆帯間に葉脈状文、列点文	串田新式
31	#	99X49.9Y86.4 SD148	厚さ7mm	体部が直線的に開く	"
32	#	不明	厚さ6mm	内湾口縁、橋状把手、ねじり棒突起	"
33	鈎付土器	99表採	胴部径26.8cm 器高残20cm	肩部に橋状把手	"
34	深鉢	99SX17	厚さ6mm	半截竹管半隆起線、蓮華文	新崎式
35	#	#	厚さ7mm	隆帯上に爪形文、半截竹管半隆起線文	上山田・天神山式
36	#	#	口径28cm 器高残7.5cm	沈線連弧文の間に貝殻腹縁文	串田新式
37	#	#	厚さ6mm	波状口縁、隆帯間に縄文	"
38	#	#	厚さ7mm	外反口縁、口縁部下に貝殻腹縁文、条痕文	"
39	#	#	厚さ5mm	くの字外反口縁、三角列点文、縱縄文	気屋式
40	#	99SX14	厚さ9mm	半截竹管隆起線による縦縫、ヘラ刻み	古串田新式
41	#	#	厚さ7mm	半截竹管半隆起線、隆帯、格子文	新崎式
42	#	99SX17	厚さ6mm	波状口縁、隆帯間に縄文	串田新式
43	#	99SX14	厚さ7mm	沈線による縱横の平行線と爪形文	古府式
44	#	99SX17	厚さ6mm	平行沈線間に列点文	前田式
45	#	#	厚さ8mm	平行沈線による梢円文	串田新式

表4-3 第2調査区縄文土器一覧表(3) 第18図、図版14

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期・型式
46	深鉢	98SD05	厚さ5mm	横柔痕文	下野式
47	"	"	厚さ7mm	縄文地に2本の凹線文	井口式
48	"	98X47.5Y86S D05	厚さ6mm	くの字外反口縁、口唇部押圧、柔痕	中屋式
49	"	98SD05	厚さ8mm	口唇部刻み	"

表5 第2調査区土製品一覧表 第18図、図版14

番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期・型式
1	土偶	99X48.7Y86.3 トレンチ5②	長さ41cm、 厚さ1.1~2.2cm	腕部(右)、中実、有脚立像土偶(河童形 土偶)、表裏とも沈線による平行線	上山田・天 神山式~古 府式

表6 第2調査区石器一覧表 第19図、図版15

番号	種類	年度・遺構・地区・層位	大きさ	特徴 石材
1	打製石斧	98SD05 2B	長さ17.8cm、幅7.1cm 厚さ3.5cm、重さ640g	短冊形、完形、表が穂面、砂岩
2	"	98カタ11かX46.9Y86.1	長さ15.3cm、幅8.1cm 厚さ3cm、重さ420g	分鋸形、完形、刃部摩滅、表が穂面 輝石安山岩
3	"	98SD05 B区	長さ11.8cm、幅6.6cm 厚さ2.9cm、重さ320g	分鋸形、完形、表が穂、裏面磨き 輝石安山岩
4	敲石	98X48.5Y86.2 繪1層	長さ10.4cm、幅6cm 厚さ3.1cm、重さ345g	棒状鍛、上下側邊敲打による潰れ 砂岩
5	凹石	98X47.6Y86.2 10層	長さ6.9cm、幅6cm 厚さ3.1cm、重さ174g	梢円鍛、表裏とも凹み、砂岩
6	磨製石斧	98SD05 B	長さ6.8cm、幅4.7cm 厚さ2.3cm、重さ127g	定角式、短冊形、頭部欠損、凝灰質砂 岩
7	"	98X48.5Y86.4	長さ5.4cm、幅3.8cm 厚さ2.0cm、重さ62g	定角式、撥形、頭部欠け、凝灰質砂岩
8	石刀	98SD05 X47.2Y85.7	長さ17.6cm、幅3.5cm 厚さ2.4cm、重さ201g	頭部欠損、右側辺平らで背、左側辺刃 部、頁岩

表7-1 第10調査区縄文土器一覧表(1) 第20図、図版16・17

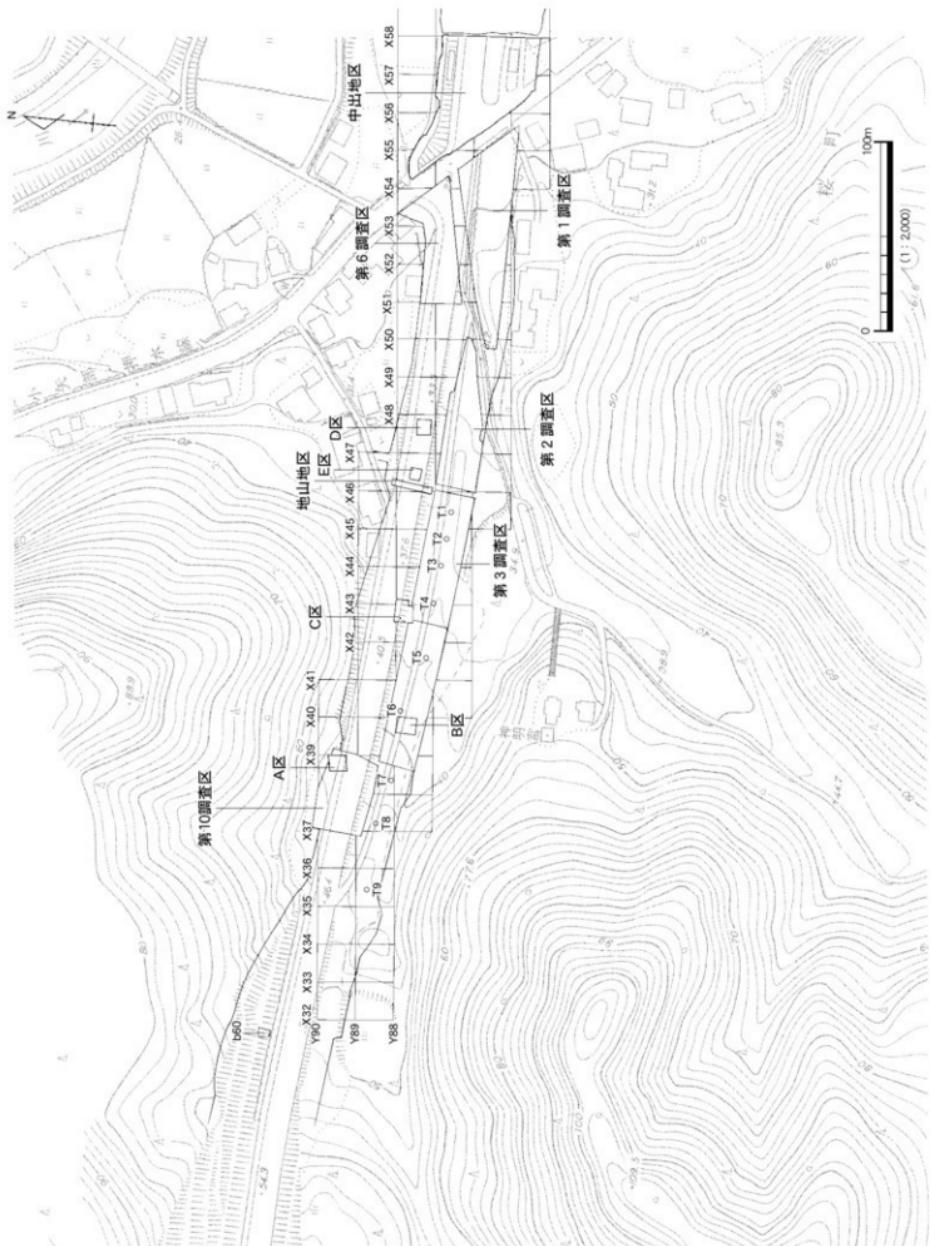
番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	型式
1	深鉢	90X38.4Y89.7黒色土	口径27.9cm 器高残30.9cm	平口縁、口縁部半截竹管平行線 文と縱線、胴部結節縄文	新崎II式
2	"	90埋甕 X37.2Y89.6	口径41cm 器高38.8cm 底径9.4cm	平口縁、胴部横方向の貝殻柔痕 文	下野式
3	"	90川跡 X37.1Y88.9	厚さ7mm	口縁部に押引き列点文	"
4	"	90黒色粘土 X37.3Y88.8	厚さ5mm	口縁部に沈線と列点文	"
5	"	90川跡黒色粘土 X37.3Y88.9	厚さ7mm	平行沈線と列点文	"
6	"	90黒色粘土上層 X37.5Y89.2	厚さ7mm	横方向の貝殻柔痕文	"

表7-2 第10調査区縄文土器一覧表(2) 第20図、図版17

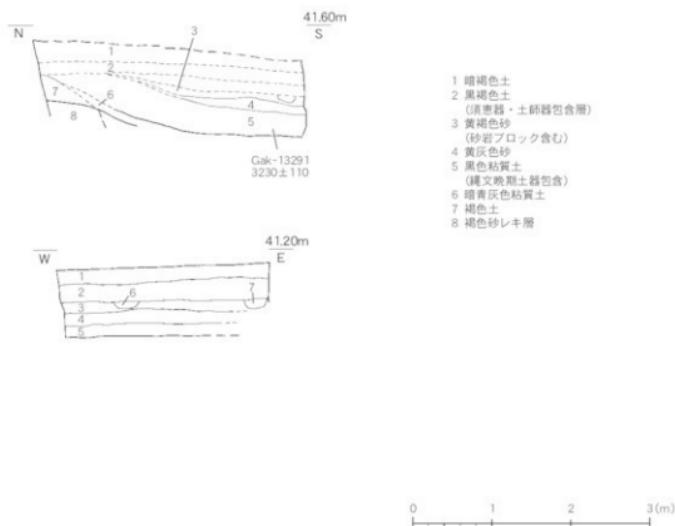
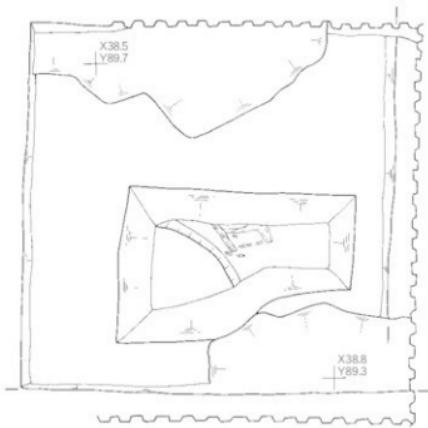
番号	種類	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	型式
7	注口土器	90黒色粘土 X37.1~37.2 Y88.9~89	厚さ5mm	環状突起	後期
8	鉢か	90黒色粘土 X37.3 Y88.8	厚さ5mm	沈線と押引き列点文、赤漆塗	下野式
9	深鉢	90川跡肩黒色粘土 X37.3 Y88.9	厚さ7mm	無文	"

表8 第10調査区石器一覧表 第21図、図版18

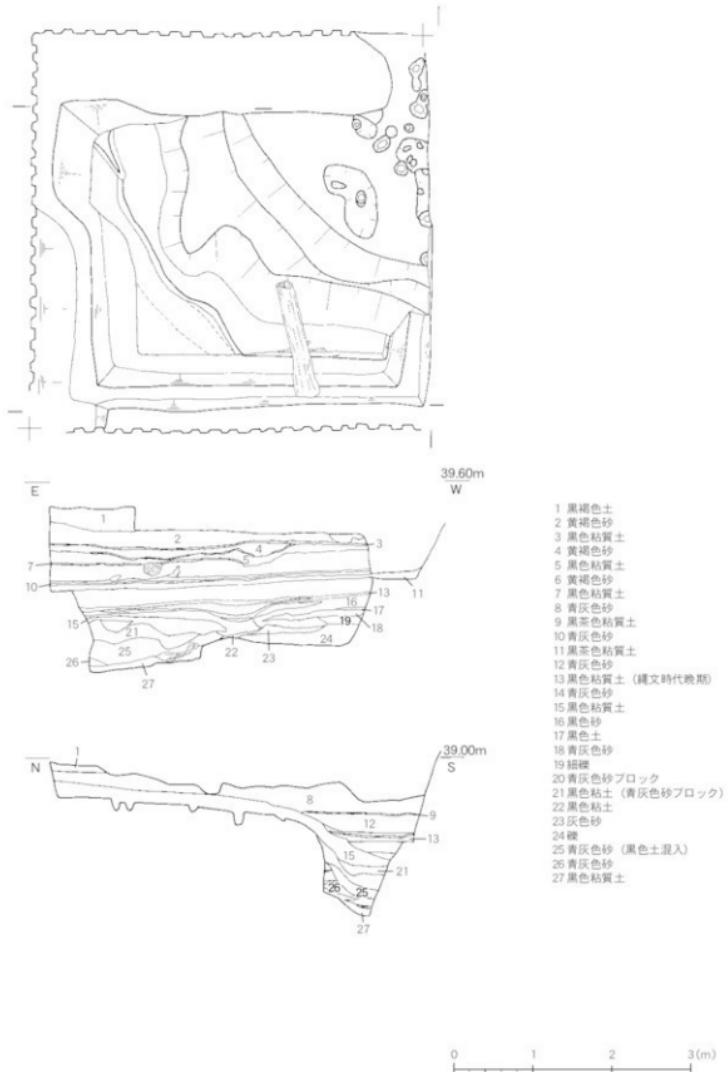
番号	種類	年度・遺構・地区・層位	大きさ	特徴 石材
1	打製石斧	90X39.2 Y89.6	長さ18.8cm、幅7.4cm 厚さ3.9cm、重さ797g	短冊形、ほぼ完形、表面が穢、砂岩
2	"	90試掘トレンチX45.5 Y86.9 2層黒下層	長さ14.7cm、幅6.9cm 厚さ2.8cm、重さ417g	撥形、完形、表面が穢、表右下と裏面に磨き、左右側面打ち欠き後の磨き、輝石安山岩
3	"	90X39 Y88.4 黒褐色土層	長さ13.6cm、幅7.4cm 厚さ2.3cm、重さ328g	分銅形、頭部欠け、表面が穢、輝石安山岩
4	"	90試掘トレンチX45 Y86.9 II層黒	長さ10cm、幅7.6cm 厚さ2.4cm、重さ283g	分銅形、刃部欠損、表面が穢、砂岩
5	"	90X37.1~38 Y89茶褐色土	長さ8.4cm、幅6.7cm 厚さ3.7cm、重さ273g	撥形、刃部欠損、表面が穢、花崗岩 閃綠岩(黒雲母、角閃石)
6	敲石	90川跡肩部X37.3 Y88.9 黒色粘土上	長さ10.8cm、幅7.1cm 厚さ5.9cm、重さ669g	楕円穢、上下側辺、裏上部に敲打 珪石
7	石鍤	90川跡X37.1 Y88.9暗青 灰色砂	長さ8.1cm、幅6.6cm 厚さ2.2cm、重さ161g	小判形穢、上下側辺に欠き込み、 輝石安山岩



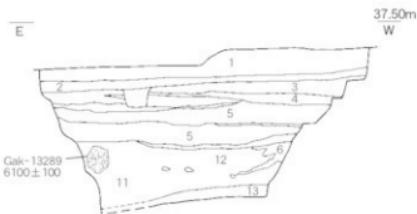
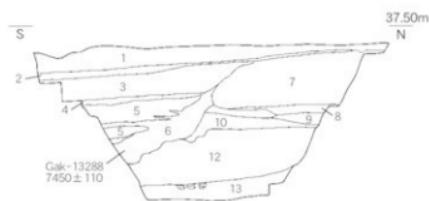
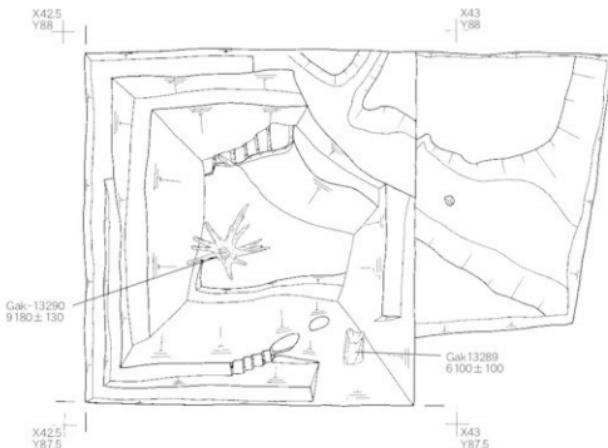
第2図 調査区位置図（2000分の1）



第3図 舟岡地区試掘調査A地区

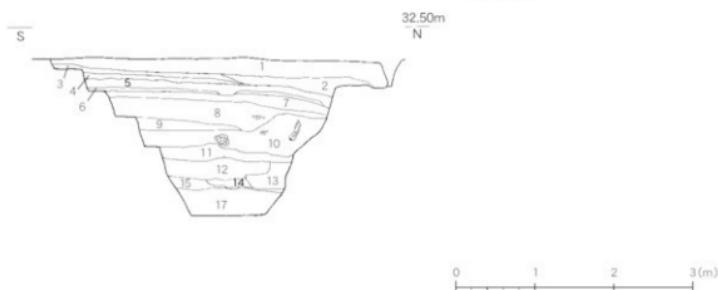
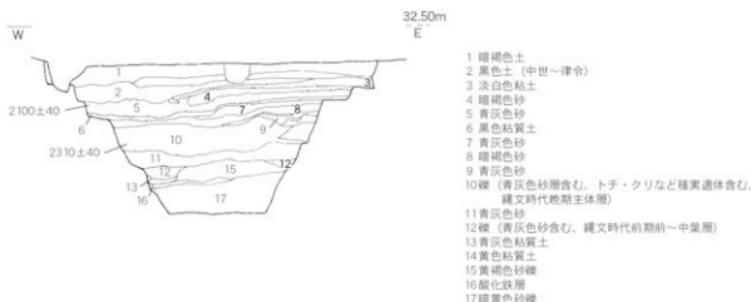
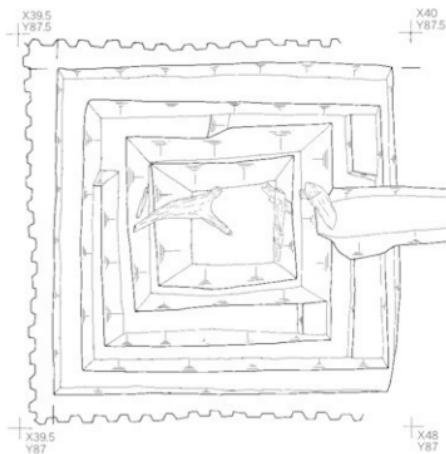


第4図 舟岡地区試掘調査B地区

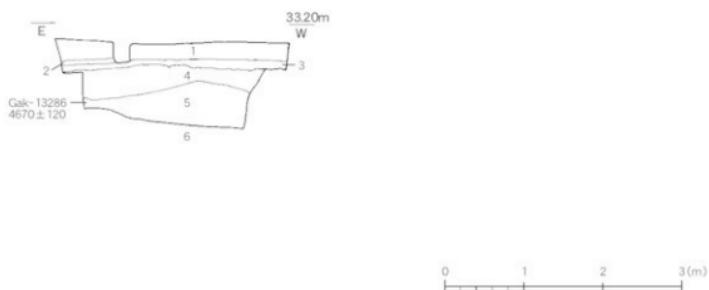
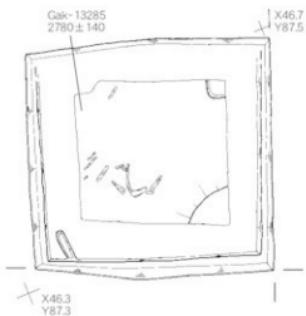


0 1 2 3(m)

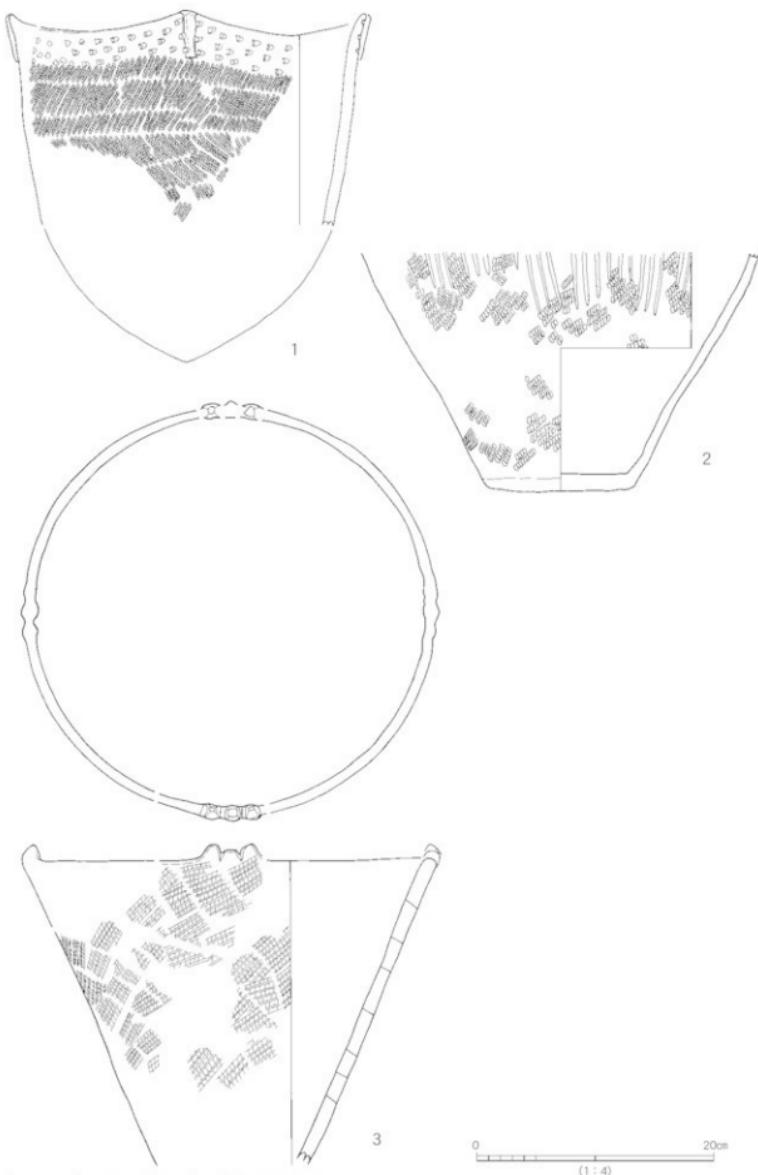
第5図 舟岡地区試掘調査C地区



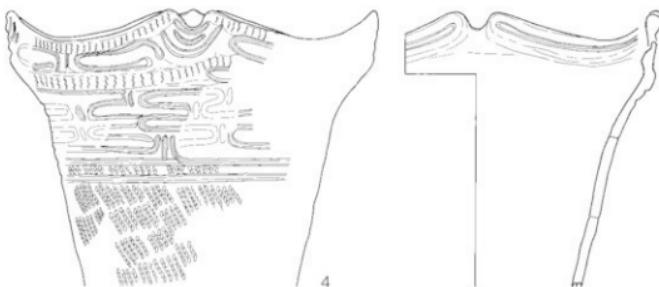
第6図 舟岡地区試掘調査D地区



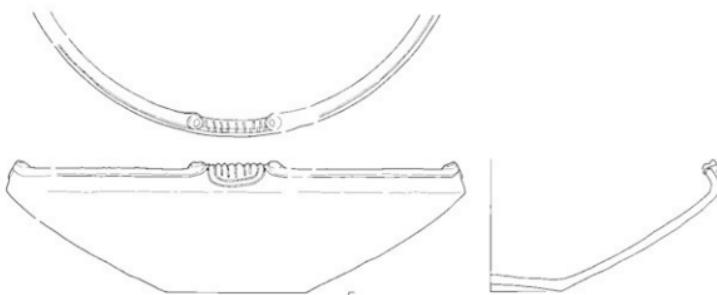
第7図 舟岡地区試掘調査E地区



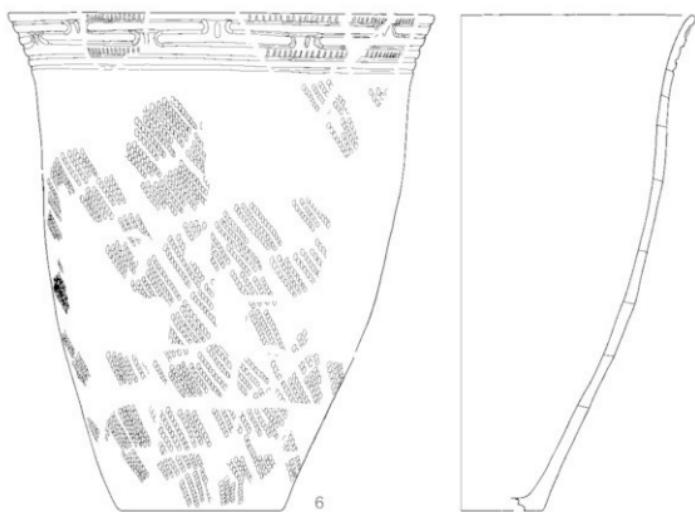
第8図 舟岡地区試掘調査区縄文土器(1)



4



5



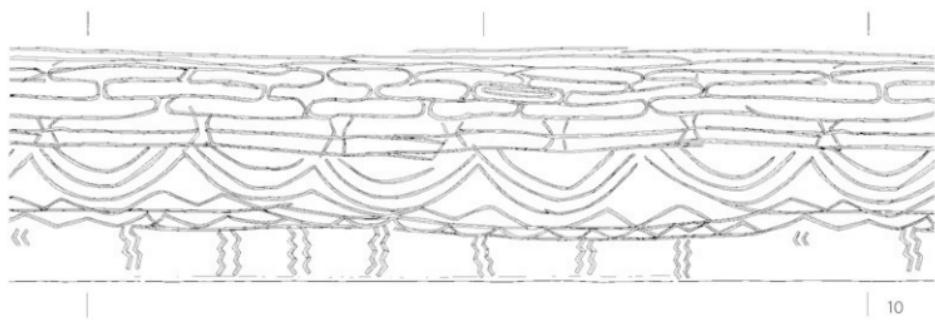
6

0  
20cm  
(1 : 4)

第9図 舟岡地区試掘調査区縄文土器(2)



14



10



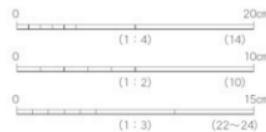
22



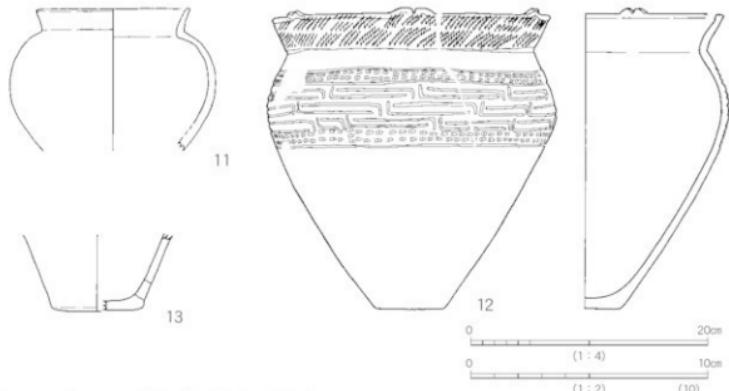
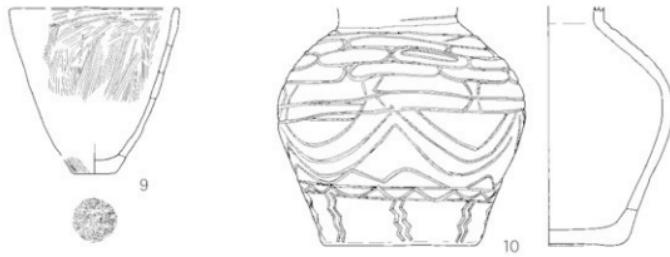
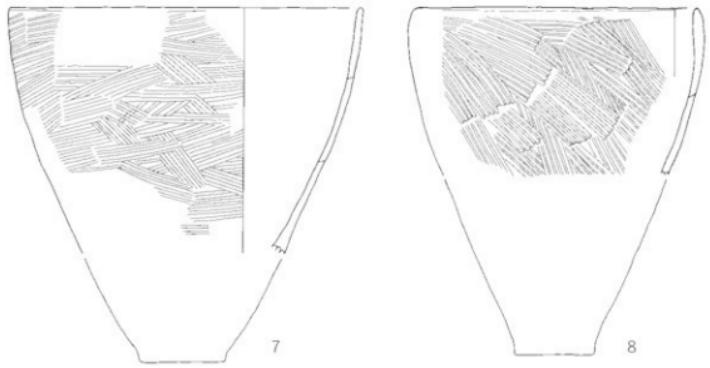
23



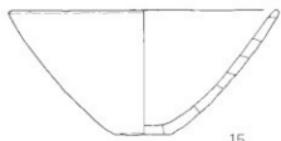
24



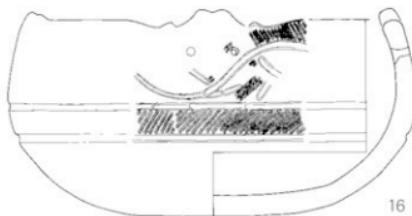
第10図 舟岡地区試掘調査区縄文土器(3)



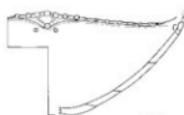
第11図 舟岡地区試掘調査区縄文土器(4)



15



16



17



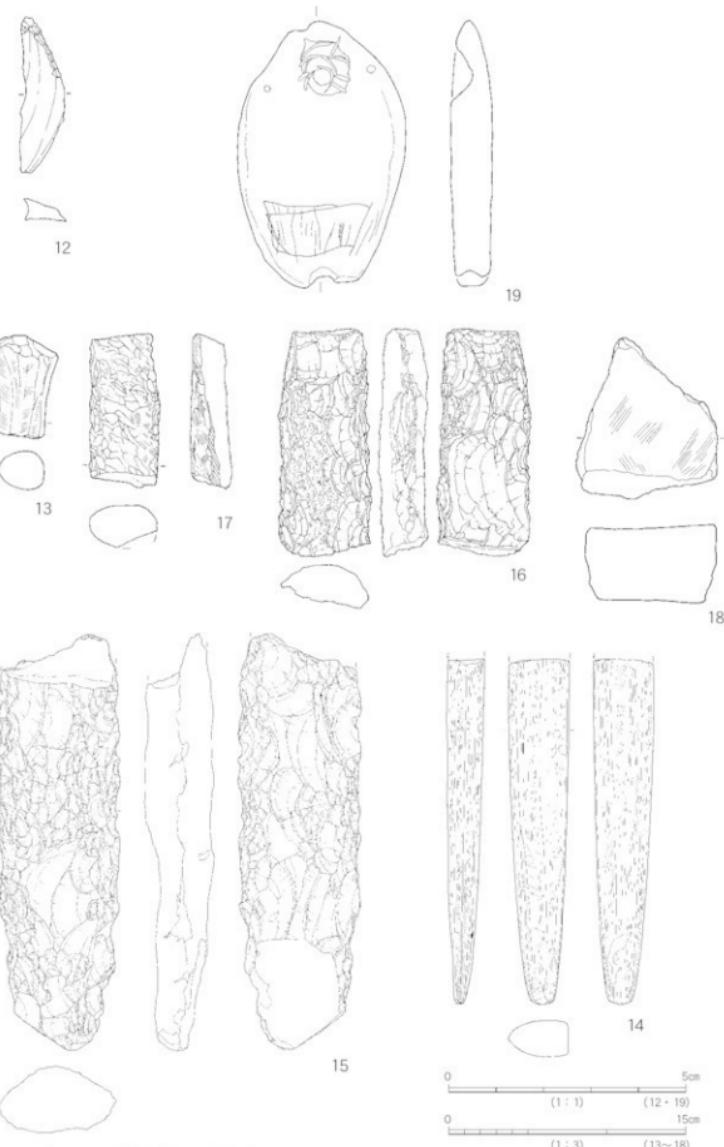
18

0 20cm  
(1 : 4)

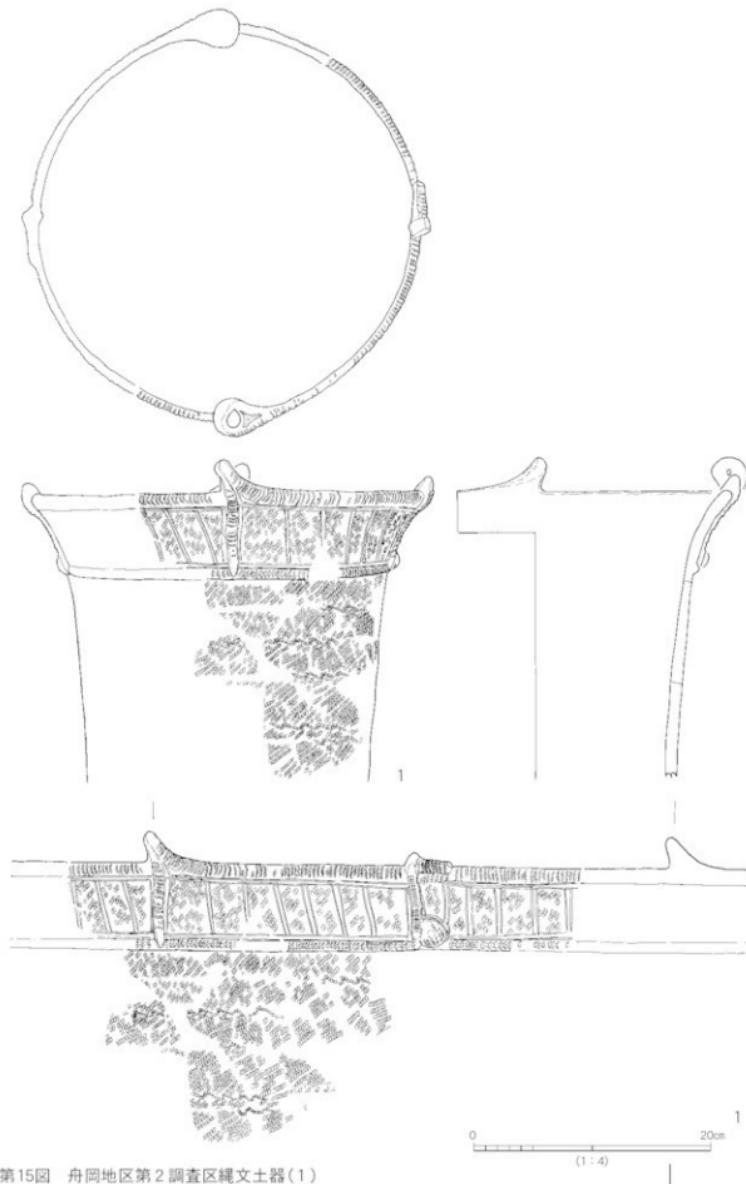
第12図 舟岡地区試掘調査区縄文土器(5)



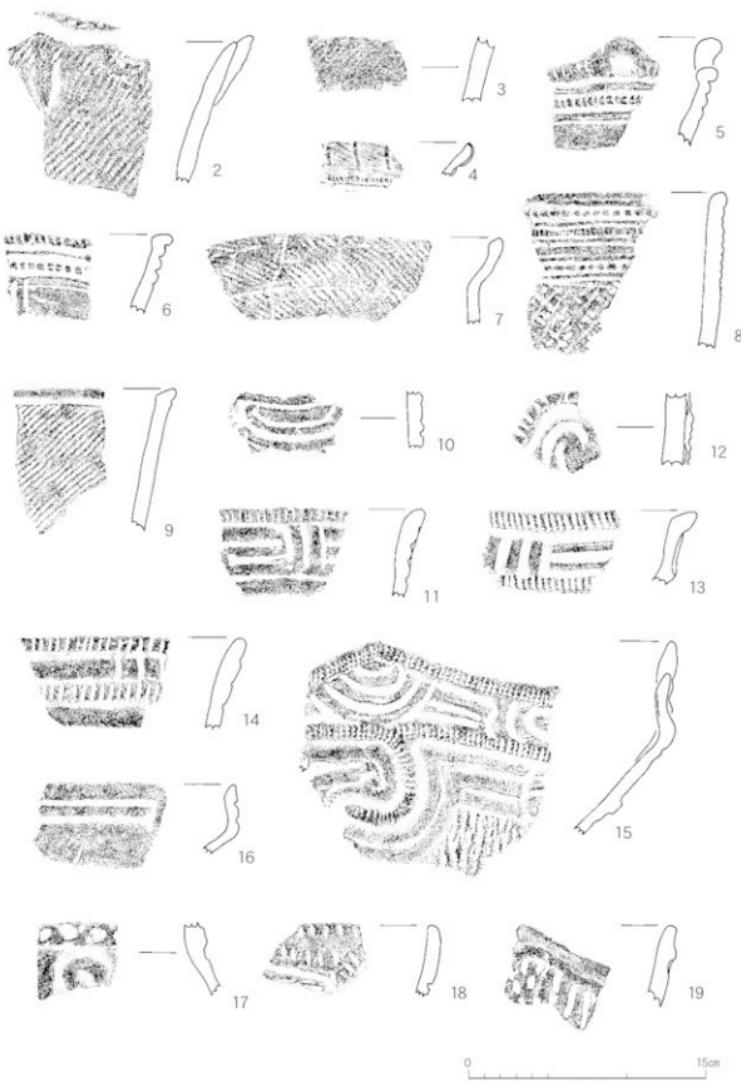
第13図 舟岡地区試掘調査区石器(1)



第14図 舟岡地区試掘調査区石器(2)



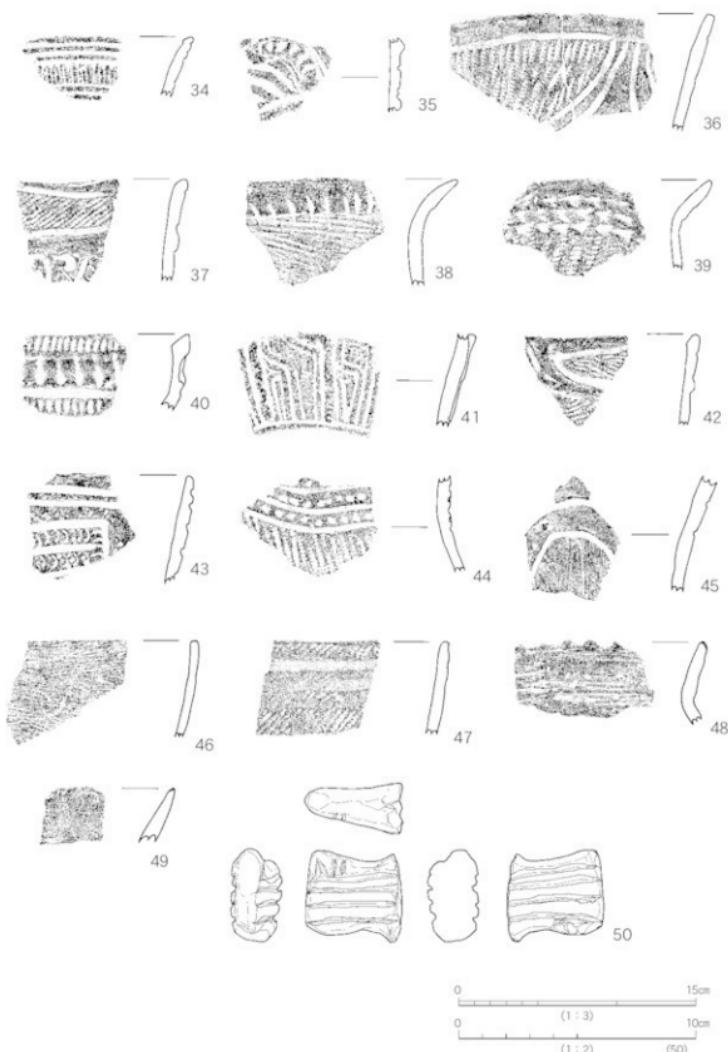
第15図 舟岡地区第2調査区縄文土器(1)



第16図 舟岡地区第2調査区縄文土器(2)



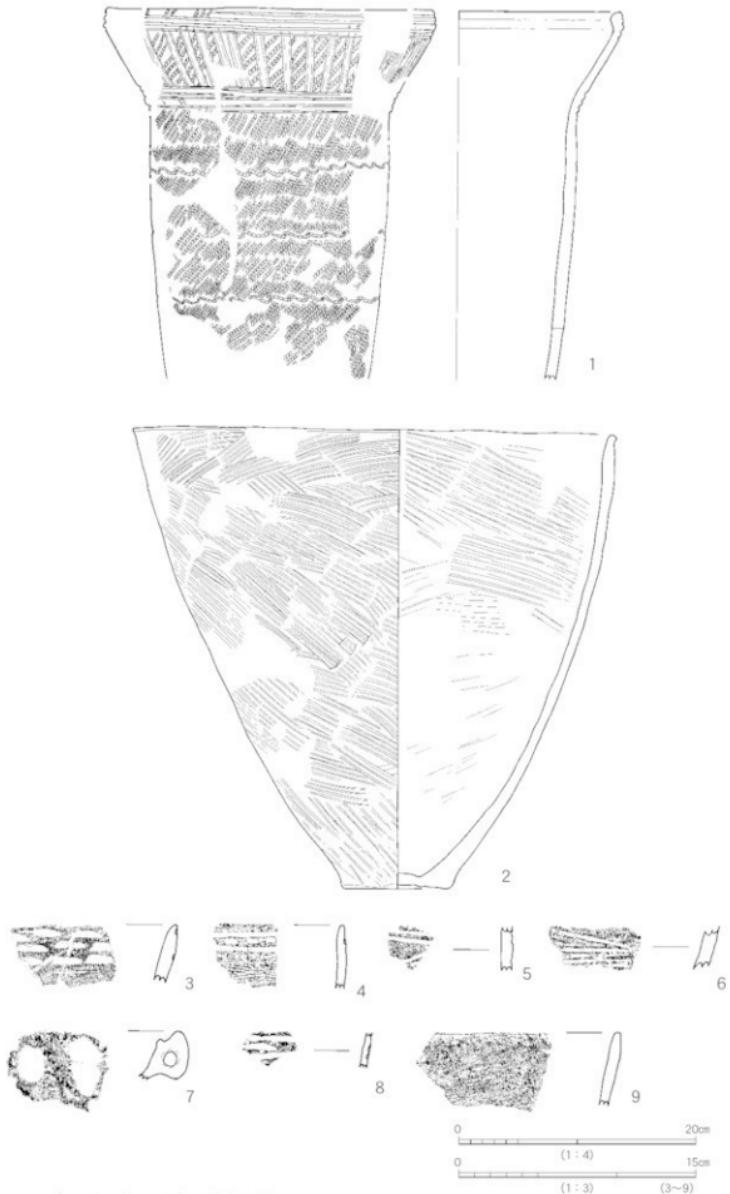
第17図 舟岡地区第2調査区縄文土器(3)



第18図 舟岡地区第2調査区縄文土器(4)



第19図 舟岡地区第2調査区石器



第20図 舟岡地区第10調査区縄文土器



第21図 舟岡地区第10調査区石器

# 写 真 図 版



図版1 調査区全景(上)・西端地区(下)



図版2 西端地区弥生土器出土状況(上)・試掘調査A地区(下)



図版3 試掘調査B地区(上)・C地区(下)



図版4 試掘調査D地区(上)・E地区(下)



1

图版5 西端地区弥生土器



1



2

図版 6 試掘調査区縄文土器(1)



3



4

図版 7 試掘調査区縄文土器(2)